

10周年!

天満天神繁昌亭

橋を渡る人の街事情マガジン

月刊島民

中之島

Vol.98 2016 9/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)



ナカノシマ大学

「生きた建築ナイト」

万城目学

高岡伸一 倉方俊輔

申し込み受付中!

繁昌亭ができた日。

文／日高美恵（ライター・落語情報紙「よせば」編集発行人）

9月15日、上方落語の定席である天満天神繁昌亭が開席から10周年を迎える。年中無休で落語の公演があることに、すっかり慣れてしまったが、これは決して当たり前の光景ではない。誕生からこれまでの歩みをふり返り、毎日落語が聴けることの幸せを噛みしめよう。

特集取材協力／桂春之輔（上方落語協会副会長）

10年前の2006年、上方落語界に

新しい灯がともった。上方の落語家、そして多くの落語ファンが待ち望んでいた落語の定席、天満天神繁昌亭。届きそうで届かなかった大きな夢がついに現実のものとなった。約60年ぶりの落語の定席の復活に大阪の街は大いに沸いた。

「どこで聴ける？」と聞かれ、答えに窮する。

時代の移り変わりとともに、テレビやラジオの落語番組が激減し、放送されても深夜か早朝の時間帯が主となった。しかも放送されるのは上方落語ばかりではない。「落語はやっぱり生で見るのが一番！」と言われているのに、「そこに行けば必ず落語を聴くことができる」という場所が長い間、上方にはなかった。各地で不定期に開かれていた落語会に行くために、ファンは落語家本人から送られてくるDMや入手したチラシ、そして数少ない情報誌や新聞などで情報を探して通い続けていた。



「どこで聴ける？」と聞かれ、答えに窮する。

桂かい枝さん

「断家のほは」【繁昌亭ができて嬉しかった。】
「ホームグラウンド」ができて嬉しかった。

繁昌亭がない頃は、いわば遊牧民みたいなもので、喫茶店とかお寺を間借りして落語会をやっていたんです。舞台を作っても、終わればまた壊さないといけないのが辛かった。だから、繁昌亭で同期会をやった時、終わって外に出て、提灯に灯りがともっているのが嬉しかったなあ。「俺たちのホームグラウンドができたんや」と実感しました。

落語にしても、繁昌亭ができる前は寄席で人と比べられるということがないから、みんな同じようなネタをやっていた。ネタは10年の間にずいぶん増えたと思いますよ。若い子にとっても、成功例を目の当たりにできるから、断家としての目標を明確に持てるようになった。そのぶん、みんな真面目で芸にシビアですよ。僕らが若い時よりも落語は上手なんちゃうかな。

ただ、ここで終わってはいけないんです。寄席はもちろん大事ですけど、繁昌亭から飛び出して、さらに大きなホールを満員にできるようにならないと。そういう人が出て来ることで、繁昌亭もさらに発展すると思います。



平成6年(1994)に入門。「英語落語」の活動が中学校の英語教科書にも取り上げられている。

●高座情報

9月12日(月) 繁昌亭夜席
(桂三度 桂かい枝二人会)
9月15日(木) 繁昌亭10周年公演 第1回
9月24日(土) あべのハルカス寄席
公式サイト: <http://katsura-kaishi.jp/>



ひだかみえ

小学生から落語に親しんでいたことがきっかけで、学生時代から京阪神エルマガジン社の情報誌で演芸を担当。その経験を活かし、現在はフリーの演芸ライターとして活躍。この9月で10周年を迎える上方落語情報紙「よせば」編集長。

東京には鈴木本演芸場、浅草演芸ホール、新宿末広亭、池袋演芸場の4つの寄席があり、国立演芸場でも落語を楽

しめる。上方にはそういった定席の寄席がないぶん、落語家がホールや劇場、お寺や神社、飲食店などさまざまな場

桂春蝶

【作家のはな】交流の場としての繁昌亭

多くの人の芸に触れられる場の存在は大きい。



平成6年(1994)入門。東京～大阪を往復しながら独演会を開催。落語の東西交流にも力を入れる。

●高座情報

9月12日(月) 動楽亭昼席
9月18日(日) 独演会 in 池田市
9月23日(金) 桂春の輔落語会
公式サイト: <http://shunchou.jp/>

落語会で集まる機会はたくさんありますが、それはせいぜい1日のこと。ところが繁昌亭の場合は1週間続けて同じメンバーで寄席をやる。これが我々落語家にとってはありがたいんです。単に一緒にいるだけでなく、毎日いろいろな方の芸に触れて勉強できる。特に若手にとってはとても大きいでしょうね。

東京の方を呼んで繁昌亭で落語会をやっても、いい評判しか聞かないです。きれいで華やかで、お客さんもいい。「大阪へ行く時は出たい」とよく言われますよ。上方落語にとってのランドマークになっているんですね。

その意味では東西交流の拠点とも言えますが、昔に比べれば東京と大阪の垣根はなくなってきていると感じます。今は東京も大阪もソフト重視で、「いいものはいい」というスタンスで聴いてくれる。だからこそ、個人が伸びていかないとダメだと思ふんです。その人を目当てにやって来て、他にも面白い落語家がいることを知るきっかけとなるような、そういう繁昌亭に貢献できる落語家を目指したいですね。

昼席終了後、おそろいの法被を着た出演者によるお見送り。繁昌亭のファンサービスの象徴的光景。



実際、繁昌亭ができるまでも、数多くの落語会があちこちで開かれていた。でも、「普段はどこで落語を聴けますか？」と聞かれると、落語家はいつも答えに窮していた。六代桂文枝(桂

所を開拓し、落語会を開いていた。地元の人々とともに運営する地域寄席も発達し、落語人気の力強い支えとなった。実

上方落語絶滅の危機と言われた、繁昌亭誕生前夜。

三枝) 上方落語協会会長自身もこの質問がきっかけとなって繁昌亭の実現を目指したと話している。「繁昌亭に出ています！」と誇らしげに答える姿を見かけると、これまでを思い起こして何とも嬉しくなってくる。

第二次世界大戦の戦禍で大阪のほとんどの寄席が焼失し、漫才が人気を集めて台頭する中、落語界を支えていた大御所の相次ぐ死去で「上方落語は滅んだ」とまで言われた時代があった。そのどん底の時代に手を携え、現在の隆盛に導いたのがちに「上方四天王」と称される六代目笑福亭松鶴、三代目桂米朝、三代目桂春団治、五代目桂文枝の4人だ。当時、まだ入門したてだった4人はネタを増やすためにそれぞれ別の古老のところに通い、落語ができる場所を探してきては、積極的に落語会を開いていた。また、落語家の数を増やそうと多くの弟子を取って育て上げた。

上方落語の復興に向けて尽力していた実父の五代目笑福亭松鶴が亡くなった後、その遺志を継いだ六代目松鶴は昭和47年(1972)に上方落語協会主催の「島之内寄席」をスタートさせた。場所は大阪・ミナミの島之内教会。

「上方落語を残していくには落語の定席が必要」という六代目松鶴の強い思いが実を結び、月に5日間だったのが、定席の実現にこぎつけたのだった。松鶴自らが下足番も買って出たという、落語家が丸となって作り上げた当時の定席への情熱は今もベテラン勢の語り草となっている。その後、島之内寄席は何度も会場を変えて続けられ、今は原点と言える島之内の大阪市立中央会館で月に一度開かれている。

また、島之内寄席がスタートした翌年から、吹田の千里セルシーホールで毎月27、28日に上方落語協会主催の「千里繁昌亭」が開かれた。「繁盛」ではなく「繁昌」。六代目松鶴が命名した「繁昌亭」という会の名には「目を重ねて繁榮する」という願いが込められている。「27、28日は千里繁昌亭」を合言葉に、豪華メンバーが出演する特別な会だったが、継続は叶わなかった。松鶴が牽引して続けてきた定席への道のりはそれだけ険しいものだった。その姿を目の当たりにし、定席実現の高い壁は乗り越えられないものと思っていた人も多かったろう。

だが、2006年9月に桂文枝会長を筆頭にした落語家や関係者の努力と信念が多くの困難に打ち勝ち、繁昌亭が誕生した。文枝会長はいつも「繁昌亭は奇跡の寄席」と語っている。そして実現することすら奇跡だった繁昌亭が、また新しい奇跡を生み続けている。

ついに迎えたオープンの日。 念願叶った「みんなの小屋」。

開場1週間前の2006年9月9、10日のプレオープン4公演を経て、落語の定席、天満天神繁昌亭は9月15日にこけら落としを迎えた。

天神橋筋商店街の北詰、天神橋6丁目で午前9時半からセレモニーが行われたあと、天神橋2丁目にある天満天神繁昌亭まで約2・6キロの日本一長い商店街を、落語家や関係者が華々しく練り歩いた。六代文枝が車夫となつて、三代目桂春団治を乗せた赤い人力車を引き、落語家やお囃子の山車があ



こけら落としの日の様子。マスコミやファンが大勢訪れ、道路を埋め尽くした。

とに続いた。

途中で人力車のひき手や乗り手を順々に変えて進む姿は「上方落語のパトン」を手渡すりレーを思わせる象徴的なものだった。沿道にはたくさんの方が鈴なりとなつて、声援を送っていた。天満天神繁昌亭に到着すると、そこは詰めかけた人で埋め尽くされていた。たくさんの方の大きな期待と夢があふれた華々しい船出となつた。

多くの落語家、観客が寄席の経験をほとんど持たない中、繁昌亭は新しいスタートを切った。東京の寄席は席亭が主導権を握っているが、繁昌亭は上方落語協会が運営する「みんなの小屋」。それぞれが意見を

持ち合い、試行錯誤をしながら作り上げていく。

昔、六代目松鶴は「寄席はみなでひとつや」と言っていたそうだ。何席も落語が続く寄席ではネタも含め、まわりのことを考えて演じ、最後に出演するトリの人に向けて、心を一つにして一緒に作り上げようということだろう。最初の頃はそのレールから外れてしまう演者もいたが、回を重ねるにつれ、「みなでひとつ」の思いが重なっている。

笑福亭三喬さん

【断家のほはな】【繁昌亭大賞のもはらすもの】 励みになると同時に背筋が伸びる賞ですね。

この賞は1年間の高座の出来を評価するものですが、私の場合、ちょうど受賞資格上限の入門25年目だったこともあり、光栄だという以上に、「今後さらにしっかりやんなさいよ」と言っていたような感じがしましたね。

受賞をきっかけに、東京を意識するようになりました。それまでも意志はあったのですが、なかなか踏み切りがつかなかった。でも、こんな賞をいただいたのだからと自分に言い聞かせて、東京での独演会をスタートさせたんです。大賞をもらったら東京で独演会を打とうよ、とまでは言いませんが、そのくらいの気持ちを持たなければいけないと思います。

大賞をとると、昼席のトリを務めることができます。最後に出ていく人は、お客さんに「寄席に来てよかったな」「また来たい」と思ってもらわなければいけない。その役目をしてくれと言われてるんです。「この人を見てください」と、繁昌亭から言ってもらっているようなものですから、励みになると同時に背筋が伸びる賞でもありますね。



昭和58年(1983)入門。第1回繁昌亭大賞を受賞。盗人噺が得意で、「泥棒三喬」の異名も。

●高座情報

9月15日(木) 繁昌亭10周年公演 第1回
9月19日(月)～25日(日) 繁昌亭昼席(※22日除く)
10月29日(土) 独演会(大阪松竹座)
笑福亭三喬 一門HP: <http://syokyo.net/syokyou/>

繁昌亭が生む好循環が 上方落語を盛り上げる。

繁昌亭ではさまざまな企画も実施されている。繁昌亭に出演する入門25年以下の落語家から選ばれる繁昌亭大賞(P8)もその一つ。受賞すれば昼席のトリに出る権利を得るし、受賞記念公演を開くなどのチャンスが与えられる。また、若手のスターを生み出そうと上方落語若手断家グランプリ(P8)も



2007年からスタートした繁昌亭大賞。第1回授賞式の様子。

「コンクール」もまた「楽」 落語家の違う一面やネタの捉え方がわかる。



平成10年(1998)入門。6月に行われた第2回上方落語若手噺家グランプリで優勝。

●高座情報

9月7日(水) 繁昌亭夜席(兄弟会)
9月15日(木) 繁昌亭10周年公演 第2回
9月28日(水) 繁昌亭夜席(月刊笑福亭たまご)
公式サイト:<http://www.studio-abby.com/tama/>

若手噺家グランプリのようなコンクールは特別なお祭りなんです。もっと言うと、繁昌亭の昼席などの本舞台が「日常」だとすると、「非日常」が味わえるのがコンクールです。

今回の決勝では持ち時間が12分でしたが、その中に落語のエッセンスをどれだけ詰め込めるかを競うわけです。いつもとは違った落語が味わえるので、これはこれで面白い。しかも、出場者のカードの切り方が違うんです。例えば、10分でやるのが一番面白いネタを持ってくる人と、20分のネタを10分にする人がいる。同じネタをやっても構成の仕方が変わる。何を肝と考えるかは人それぞれなので、その人の違った一面や落語の捉え方が見える時がありますね。

こういうコンクールって、その日の雰囲気にとっても左右されるんですよ。賞によって落語家の絶対的な価値が揺らぐとは思いますが、その日の一番が決まります。一喜一憂はするけれど、それでホンマの優劣が決まるわけではない。それほど深刻ではなく、お客さんも楽しめばいいと思いますね。

昨年新設された。昨年終了したが、将来に残る落語台本を広く公募し、入選作をプロの落語家が演じるコンクールを開いたり、プロの手ほどきで落語を学ぶ「入門講座」を開講するなど参加型の企画を取り入れているのも繁昌亭の特長だ。入門講座からはプロの噺家も誕生している。

繁昌亭の魅力の一つは落語家との距離の近さだろう。小屋もコンパクトで見やすいが、終演後に出演者が見送りをしてくれるのも東京の寄席にはないサービスだ。出演者と一緒に写真を撮ったり、サインをしてもらったりすることで、気持ちが近くなり、また繁昌亭に足を運ぶきっかけにもなっている。繁昌亭のロビーや休憩室「輪茶輪茶庵」には落語会のチラシが並べられ、情報発信の拠点ともなっている。また、輪茶輪茶庵では週に一度、まだ繁昌亭の舞台に出ることができない若手が出演する勉強会が開かれている。



お見送りの時間は、ファンと落語家のふれ合いの場にもなっている。

繁昌亭の誕生は観客だけでなく、落語家にも影響を与えている。それまで落語会などでは限られたメンバーしか会っていないかったのに、繁昌亭という拠点ができたことで、久々に出会い、親交を深めたという話もよく耳にする。繁昌亭で一緒だったことがきっかけとなって、別の会場で開いている自分の落語会に出てもらうようになったという話も多い。固定していた地域寄席のメンバーが少し変わってきているのも繁昌亭の影響だろう。

また、大師匠から若手までがひとつの楽屋に集うことで作法を学び、芸談を聞くなど若手にとって勉強になることも多い。加えて、終日シャワーを浴びるように落語を聴くことが何よりの財産になるだろう。

そして、次の時代へ。

四天王が亡くなり、上方落語は世代交代の時期にある。東京の落語家との東西交流も盛んに行われている。東京で切磋琢磨して頭角を現してきた中堅若手や人気と実力を兼ね備えたベテラン勢が続々と上方にやってくる。その東京勢に対抗できる落語家、トリをつとめる落語家を多く生み出すことが急務だろう。だが、次代を育てる柔軟な土壌が繁昌亭にはある。

もう10年だが、まだ10年でもある。開席の時から文枝会長が訴え続けているのは「繁昌亭からスターを」ということ。それが次の悲願だろう。

繁昌亭の誕生日は 現地で落語を聞こう!

10周年を迎える9月15日(木)当日は、朝から夜まで全3回の「開場10周年記念特別公演」が行われる。中堅からトリの大御所まで、そうそうたる顔ぶれの豪華メンバーだ。各回に桂文枝会長の口上があり、繁昌亭にかける想いを改めて聞けるかもしれない。出演者の詳細や残席状況は繁昌亭、またはチケットぴあのホームページをチェックすべし(P6参照)。



こう見る 繁昌亭

○ 1年365日、毎日落語の公演がある繁昌亭。
どんな楽しみ方をすればいいのか、
繁昌亭ならではの特色も踏まえて、一気におさらいしよう。

取材文／江口由夏 大迫力(本誌) 写真／李宗和

昼席

出演者が一つになって生み出す、 エンターテインメントを味わうべし。

繁昌亭の基本となるのはやはり昼席である。昼席は上方落語協会が主催し、伝統的な寄席のスタイルで行われる。

開演は午後1時。まずは落語が五席と色物(落語以外の芸)が一席。仲入りの休憩を挟んで、再び色物が一席と落語が三席。合計10組の出演者による3時間超の舞台は、まさに圧巻のボリュームだ。

寄席の場合、長い時間の公演を飽きずに楽しめるように、綿密に構成されている。仲入り前の「中トリ」にはトリに準じる実力の落語家が配されるし、



出演者が書かれた番組表。色物は赤字で書かれるのでそう呼ばれる。

繁昌亭のミカタ

寄席とは、「わからない」
が楽しい場所。



恩田雅和さん
(天満天神繁昌亭支配人)

昼席の番組には出演者の名前だけが並んでいて、どんなネタをやるのかはお客さんはもちろん、落語家本人もわかりません。お客さんの顔を見て、前の出演者がどんなネタをやったのかも考えながら、自分の出番に応じてその場で決めるんです。その「何が飛び出すかわからない」というのが昼席の醍醐味なんです。笑福亭鶴瓶師匠から当日の朝に電話をもらい、番組に名前が出ないまま、サプライズで出演してもらったこともありましたよ。客席はもう大喜びです。次に何が起こるかかわからないというのは、人生もまた同じですね。ある日初めて聞く落語家のファンになって、独演会に通うことになるかもしれない。その出会いが面白い。ですから、「繁昌亭に行ってみようかな」という方は、ぜひ昼席にお越しください。

仲入りに後に登場する落語家には場を鎮める役目も求められる。あるいはトリに近い出番の落語家はトリの芸が引き立つようにと、出番によって求められる役割が変わってくる。当然、それに応じて持ち時間も厳格に決められている(そのため、舞台の落語家側から見て真正面に時計がある)。

また、「ネタが付く」と言って、後から出てくる落語家は、前の演者のネタを連想させるシーンやセリフの出てくるネタは使えない。しかも、誰がどのネタをやるか決まっていな



いから、出番が深く(後に)なるほどネタ数やバリエーションといった技量が問われることになるわけだ。

つまり、寄席とはトップからトリまでを通して完成される、出演者全員によるチームプレーを楽しむべきものなのだ。

いろいろあるぞ。
繁昌亭チケット情報まとめ。

公演内容の発表やチケットの販売は、昼席・夜席とも基本的に2か月前から行われている。繁昌亭のホームページで行きたい日時から探すもよし、気になる落語家さんのスケジュールから調べるもよし。残席状況はチケットぴあのホームページから確認・購入が可能。もちろん繁昌亭の窓口でも購入できる。

繁昌亭の昼席は前売2500円・当日3000円と値段は一律。仲入り後の入場は1500円となり(立ち見または補助席)、開演に間に合わなくても来てくださいという気がつかいが嬉しい。

また、65歳以上のシニアや学生、誕生日の人はち



よっとお得に(証明書をお忘れなく)。他にも和服割引や、11月22日(いい夫婦の日)に夫婦で来場すると100円入り繁昌亭オリジナル大袋をプレゼントなどの特典が。

一方の夜席は、料金や内容も日替わりであることに注意しよう。繁昌亭にはチラシ置き場があるので、ここで公演情報を仕入れるのもアリだ。

●天満天神繁昌亭

06-63524874 (11:00 AM ~ 7:30 PM)
<http://www.hanjoutei.jp/>

●チケットぴあ

<http://tptia.jp/feature/stage/hanjoutei/hanjoutei.html>

夜席

お目当てに合わせてどうぞ。
寄席ではあり得ない名物企画も。

寄席として公演を行う昼席とは異なり、夜席は落語家が主催する独演会や一門会、さまざまなテーマの落語会が中心となる。ネタも事前に公表されている場合がほとんどで、目当てのネタや自分の好みにあった企画を探して足を運ぶ楽しみがある。



夜席の面白さは、集客を狙って落語家がこぞって趣向を凝らすため、寄席では絶対に聴けない企画が生まれてくるところだろう。最近の大ヒットと言えば、「はなしか宝塚ファン倶楽部」。なぜか多いタカ

ラヅカファンの落語家が集まり、落語と共にタカラヅカの定番公演を演じるのだ。年々、参加する落語家の数も増え、第5回目となった今年5月の公演



姉様キングス

1999年に結成された落語家の間でも大人気のユニット。東京や海外での公演経験もあり。芸者スタイルだけでなく、近年は洋装でシャンソンも披露している。毎年恒例の「クリスマス夜会」は12月24日(土)開催。すでにチケットは繁昌亭窓口で販売中。直近では、繁昌亭の「開場十周年記念特別公演」(P8)にも出演。<http://anekin.shironuri.com/>



天神寄席の鼎談風景。桂春之輔師匠と高島幸次先生が月ごとのゲストと一緒にトークを繰り広げる趣向が人気。



はなしか宝塚ファン倶楽部

毎年5月に公演が行われ、第一部は宝塚歌劇にちなんだ落語が三席、そして第二部は落語家による歌劇が行われる。組長である桂あやめお手製の衣装を全員が身につけ、メイクを施して本気の歌や踊りを披露する。今年の演目は「ミーアンドマイガール」。実際の公演をなぞるだけでなく、落語らしいネタも盛り込むのが「タカファン、落語ファン双方に受けている。

桂あやめと林家染雀によるユニット「姉様キングス」も大人気。白塗りの芸者に扮した二人が、小唄や都々逸を交えた音曲漫才を披露。通称・姉キンのクリスマススイブ公演は、すっかり毎年の恒例行事になっている。

繁昌亭のミカタニ

夜席と昼席の違いが生む好循環。



高島幸次さん
(大阪天満宮文化研究所)

酒や商売など同じテーマの落語を描えるのは寄席では御法度。でも、初心者にとっては同じ要素があると、落語家の個性が際立つのでお気に入りを見つけやすい場合があります。古くからのファンの方から、「技量や芸の違いがわかりやすい」という声を聞くこともありますよ。「天神寄席」では、毎回、テーマに関連する落語とゲストを交えたトークを行っています。ゲスト目当てに初めて繁昌亭に来て、それから何度も通うようになった人もたくさんいます。最近の夜席は、鉄道落語会や落語県人会などのテーマ落語会や、「はなしか宝塚ファン倶楽部」のように落語プラスαの要素が入った公演が増えていて、落語に詳しくなくても楽しめる。昼席とのコントラストが新たなファンを生んでいると思います。

こちらは上方落語協会主催だが、月刊島民でおなじみ、毎月25日の「天神寄席」(P9)も夜席名物の一つ。2014年5月からは毎回異なる分野のゲストを交えた鼎談も組み込まれ、落語を聞いたことがない人でも気軽に楽しめるようになった。

さらにビギナーにオススメなのは、休憩室「輪茶輪茶庵」での若手による勉強会。初心者にもわかりやすい話が、多く、入場無料なので気軽にのぞいてみては。入門して間もない若手たちのモチベーションにもつながる。こちらは毎週木曜午前中の開催。

昼、夜と来て…
「朝席」もあります。

夜席と同様、朝席は落語家主催。毎日というわけではなく、土・日・祝日の開催が多いようだ。例えば、桂かい枝さん(P2)も出演する外国人観光客を意識した英語落語会や、夏休み期間中には「パベット落語」など親子そろって楽しめるような企画も。落語家にとっても、ふだんの高座とは違ったことに挑戦できる貴重な機会なのかもしれない。昼席が開場するまでの短時間の公演で、その分料金も安く、思い立った時や落語を聴きに行きたい時にもぴったり。チケットは夜席と同じく、繁昌亭の窓口やチケットぴあのホームページで残席確認と購入ができる。

繁昌亭大賞

タイトルホルダーは、イチ押し証。
受賞者による記念の特別公演もあり。



昨年の第10回繁昌亭大賞は林家菊丸さんが受賞。

中心にその年お客さんを一番喜ばせた落語家を表彰する(※)。マスコミや地元関係者が選定に当たり、大賞・奨励賞の受賞者は繁昌亭の昼席でトリを務めることができるようになる。

もともと上方落語は賞が少なく、東京のような真打ち制度もないため、こうした賞を持つ意味合いは大きい。そのため芸を磨くわけではないが、やはり落語家にとっては勲章になり、受賞が何かのきっかけになることも多い。



今年6月の若手噺家グランプリの授賞式。

若手噺家グランプリ

見る側にとっても、言わば「イチ押し」を知ることができるメリットがある。エンタリー制ではなく、ふだんの高座が評価されることもあって、落語のレベルを底上げすることにも繋がっているだろう。

一方、昨年から始まったのが入門4年以上20年以下の若手による「上方落語若手噺家グランプリ」。こちらはエンタリー制で、予選から決勝戦まで繁昌亭夜席での公演としてお客さんを前に行われる。笑いながらもどこかハラハラして、ふだんとは違う緊張感もまた楽しい。

※繁昌亭大賞は、大賞はか奨励賞・爆笑賞・創作賞・輝き賞の計5部門で始まったが、若手噺家グランプリの創設を機に、爆笑賞・創作賞・輝き賞は統合廃止されている。

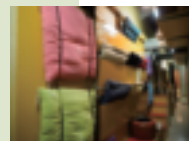
繁昌亭のミカタ

「音」や「色」も
見どころ・聴きどころ。



くまざわあかねさん
(落語作家)

ネタそのものやアレンジはもちろん、他にも落語を生で見る面白さはいろいろあります。まずは落語家さんが登場する際にかかる出囃子。野球やプロレスの選手入場曲と一緒に、一人ひとり違います。師匠を亡くされた方が、独演会などでお守りがわりに師匠の出囃子で高座に上がることも。次に、落語家さんの着物と座布団の色。繁昌亭には舞台裏の通路に13色もの座布団が並んでいて、着物の色やネタのイメージに合わせて、落語家さんがお茶子さんに好きな色をリクエストすることもできます。以前「貧乏花見」を聴いた時に、桜のピンク色かと思いきやきれいな水色の座布団が出てきたことがあり、快晴の青空をイメージして気持ちよく聴けたことを覚えています。



オリジナルも多数。
繁昌亭グッズが楽しい。

目当てはもちろん落語だが、繁昌亭へ行った記念のお土産は何か？ 昼席の仲入りの間を中心に、館内にグッズ売り場が開店。繁昌亭オリジナルの手拭いやうちわ、絵葉書などのほか、上方落語に



ちなんだモチーフの扇子や一筆箋、あるいは大阪土産にもなるお菓子なども販売。上方落語のCDやDVDもある。

また、休憩室にはオリジナルの千社札シールが作れるマシンがあったり、これがないかなが楽しい。さすがファンサービスが信条の繁昌亭。落語と一緒に満喫しよう。



笑つ落語の大阪

最終回 高島幸次

「始めあれば終わりあり」というのは中国の『揚子法言』が出典だが……というようにもつとらしい物謂いはやめて、はい、本コラムは今回で終わります。

2006年9月にオープンした天満天神繁昌亭は、毎月25日の夜席を「天神寄席」と銘打ち、その敷地を無償提供している大阪天満宮に謝意を表してきた。

2014年5月の天神寄席からは落語4〜6席に、桂春之輔師匠と私がゲストを迎えて鼎談するスタイルを採り入れた。これに伴ない本誌も天神寄席の告知と本コラムを始めた。その後の天神寄席は満員続きで、2回に一度は「大入袋」が出るという盛況が続いた。

しかし、本年5月に、春之輔師匠が申し訳なきそうに「上方落語協会の都合で、この6月を限りに企画を見直すことになった」と告げられた。

幸いに6月のゲストは「大入袋」必至の内田樹先生だったので、「有終の美」になると喜んだ。「有終の美」が「易経」が出典だが……といううなもつともらしい物謂いはやめて、本誌7月号で、天神寄席の告知は終

了する旨の「お断り」を掲載した。そして私も、これで健全な研究者生活に戻れるとほくそ笑んだ。

ところが間もなく、春之輔師匠が申し訳なきそうに「上方落語協会の都合で、従来通りの企画を続けたい」と告げられた。「朝令暮改」というのは『漢書』が出典だが……といううなもつともらしい物謂いはやめて、9月天神寄席から落語+鼎談の落語会を復活し、本誌の告知も再開します。

終わりあれば 始まりあり。

まさに「大山鳴動して鼠一匹」というところですが、その出典は……もおええか。そこで、今回の鼠一匹は本コラムの終了となりました。次回から本誌編集部による天神寄席の鼎談報告と告知のページに模様替えます。どうぞ、今後とも天神寄席をよろしゅうに。

9月天神寄席は、宗教学者の釈徹宗先生をゲストに迎え、春之輔師匠が機軸します。
たかしまこうじ
大阪大学招聘教授 大阪天満宮文化研究所研究員などを務める。

9月から、どうぞ天神寄席をぶこ最厚に。

復活第1回目の今月は、高島先生とは「大阪の神さん仏さん」でおなじみ、如来寺住職でもある釈徹宗先生が鼎談ゲストとして登場。明日から生きているのが楽になる……ありがたいお話が聞けそう。今回の特集に出てくださった桂春蝶さん（P3）の落語も聞けます。

●9月のお題は「罪業」

9月25日(日)

「男と女の 罪と業」

落語／笑福亭由瓶「堪忍袋」

桂春蝶「紙入れ」

桂枝三郎「三枚起請」

桂小春団治「猿後家」

桂文之助「星野屋」

鼎談／罪業を軽くする法

釈徹宗

（宗教学者・相愛大学教授）

高島幸次

（大阪大学招聘教授）

桂春之輔

ナカノシマ大学で前売り券を買うとお得！

「天神寄席」の前売チケットをナカノシマ大学で買おうと、2300円で入場できます。いつものナカノシマ大学と同じく、ウエブ、ハガキ、FAXでお申し込みを受付中。

開催日／9月25日(日)

時間／6:00PM（開場5:30PM）／受付開始5:15PM

受講料／2300円（通常…前売2500円／当日3000円）

支払い方法／当日5:15PMより、繁昌亭前に仮設の「ナカノシマ大学受付」にて精算。

※予定枚数に達し次第、販売終了します。

※ナカノシマ大学で販売するチケットは前売り券のみです。当日券の販売はありません。

●申し込み方法はP10を参照してください。

●問い合わせ ☎06・4799・1340（平日10:00AM～6:00PM）



イラスト／フジワラトモコ

トリの桂文之助さんによる「星野屋」は、現代にも通じるような男と女の駆け引きが面白い。



ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懐徳堂
プロジェクト

イケフェス直前
スペシャル!

2016年10月講座

「今夜もデラックス!

生きた建築ナイト」

鼎談／万城目学(作家)

高岡伸一(建築家)

倉方俊輔(建築史家)

◎今月の授業

【大阪の建築】

建築好きの万城目学さんが初登場!
大阪の「生きた建築」の魅力と、
間近に迫ったイケフェスの
楽しみ方を徹底紹介。

今やすっかり大阪の秋の目玉となった「生きた建築
ミュージアムフェスティバル大阪」。大阪市内のさまざ
まな建物が一斉に公開され、昨年はのべ3万人以上
が訪れた。「生きた建築」とは、歴史的価値を継承し
つつ、現役で使われている建物のこと。レトロな近代
建築や企業のビルから、喫茶店やバーなど、セレクト
ションの時代・ジャンルの幅広さも人気の理由の一つだ。

11月5日(土)・6日(日)に行われる今年のフェス
ティバルを前に、建築好きとしても知られる作家・万城
目学さんがナカノシマ大学に初登場。実際に訪れた感想
を交えながら、生きた建築をはじめとする大阪の建築
について、フェスティバルの実行委員会のメンバーでも
ある高岡伸一さん、倉方俊輔さんと共に語り合う。

大阪のさまざまな時代の証言者でもある生きた建
築は、万城目さんの目にはどう映ったのか? 3回目
を迎える今年のイケフェスのポイントと合わせ、大阪
の建築についてじっくり語り合ってください。



写真／西岡 潔

募
集
要
項

「今夜もデラックス! 生きた建築ナイト」

日時／2016年10月27日(木)

7:00PM～8:30PM頃(開場6:30PM～)

会場／大阪市中央公会堂 中集会室

受講料／2,000円

定員／200名

主催／ナカノシマ大学事務局

協力／大阪市中央公会堂

お名前・ご住所・電話番号・人数・講座名を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。複数名でご参加希望の場合、ハガキ、ファックスについては、人数分の必要事項を明記してください。

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
「ナカノシマ大学10月講座」受付係 FAX.06-4799-1341

※先着順で受付後、**9月20日午後より**受講票をお送りします。

※受講料は講座当日に受付にてお支払いください。

※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

※当日のお車ならびに自転車でのご来場はご遠慮ください。

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら!→



お問い合わせ ☎ 06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)



ナカノシマ大学



なにわなんでも大阪検定 特別講座

「講談 大阪の恩人・五代友厚」

講師
旭堂南陽
(上方講談師)

わたしが、
ほんまもんの五代友厚です。



第8回大阪検定のテーマは「大阪の恩人・五代友厚」。
ドラマチックな生涯を講談で学ぼう。

「なにわなんでも大阪検定」は、検定やそのための学びを通し、大阪の歴史や文化の奥深さを再発見することで、大阪により愛着と誇りを持ってもらおうというもの。8回目を数える今回は、近代大阪の経済振興に尽力した「大阪の恩人・五代友厚」がテーマだ。

五代と言えば、大阪商工会議所の前身である大阪商法会議所の初代会頭として知られ、昨年、NHKの朝の連続テレビ小説「あさが来た」にも登場したことで一躍脚光を浴びた。

この講座では、講談師でまち歩きガイドとしても活躍中の旭堂南陽さんが、五代が築いた功績や活躍した時代の大阪に関する逸話を、講演と講談で披露。大阪検定を受験する予定の人はもちろん、五代ファンもその波乱に満ちた物語に胸が熱くなること間違いなし。

●プログラム

第1部 (6:30PM~7:15PM): 講演「五代友厚が活躍した時代の大阪」
第2部 (7:25PM~7:55PM): 「講談で語る 大阪の恩人・五代友厚」



旭堂南陽
1976年生まれ。大阪市出身。英語講談や講談×シャンソンなど新たなジャンルにも挑戦し、期待を集める。11月には四代目・玉田玉秀斎を襲名予定。大阪の街や歴史にも造詣が深く、新聞連載の執筆やラジオNIKKEI「南陽の関西講談ウオーク」出演など多方面で活躍。

「講談 大阪の恩人・五代友厚」

日時／2016年9月30日(金) 6:30PM~7:55PM(開場6:00PM~)

会場／大阪商工会議所 4階 特別会議室

受講料／2,000円(特製五代友厚クリアファイル付き)※当日支払

定員／100名

主催／大阪商工会議所 ナカノシマ大学事務局

●お申し込み方法

①ファックスまたはメールでお申し込み

お名前・住所・電話番号・同伴者氏名を明記の上、下記までお送りください。

FAX.06-6944-6330 メール:chishin@osaka.cci.or.jp

②インターネットで申し込む

大阪検定のホームページ内の応募フォームに必要事項を記入し、お申し込みください。

<http://www.osaka-kentei.jp/>

※申し込み先着順で受け付け、9月1日前後から参加証をお送りします。

※参加証が9月27日までに届かない場合は担当までお問合せください。

お問い合わせ／大阪商工会議所 地域振興部

TEL.06-6944-6323 メール:chishin@osaka.cci.or.jp



「大阪検定」申し込み受付中!

試験日:2016年11月27日(日)

申し込み期間:2016年10月5日(水)まで

今年は五代友厚をテーマにするほか、試験の方式にもニュースが。これまで1~3級ごとに実施していたが、初級と上級の2種で行い、点数に応じて初級では3・4級を、上級では1・準1・2級を判定する。9月17日(土)には五代友厚ゆかりの地を巡る関連イベントもあり。詳しくは大阪検定公式サイトにて。

<http://www.osaka-kentei.jp/>

大阪がデコボコなどと言うと、不思議に思うだろうか。しかし、この本を読めば納得するに違いない。

『凹凸を楽しむ大阪「高低差」地形散歩』は、縄文時代の地形図を現代の地図に重ね合わせることで見えてくる「高低差」をキーワードに、街を歩き、大阪の土地のなりたちを明らかにする。太古の大阪は「海の底」にあり、海岸線の後退と共に陸地が生まれてきた。その痕跡が、高低差という地形上の特徴に現れているのだ。

著者の新之介さんが、大阪について調べるようになったのは2007年頃。地元である十三の歴史を丹念に調査し、ブログ「十三のいま昔を歩こう」に綴った。

「社会人になって他の街にも住んでから、結婚してまた生まれ育った場所へ戻ってくると、地域のことを知りたくなってきたんです。もともと祖父が米屋をやっていたので、天満で丁稚奉公して暖簾分けしてもらって……という話も聞いていたし、戦前の店の写真も見えていた。郷土愛というか、『この土地は昔はどんな風だったんだろう?』という思いが自然に湧い

大阪はデコボコだらけの街だった。

本に掲載された写真より。八軒家浜の南側、上町台地の崖の様子がわかる。江戸時代、三十石船で大阪に着いた旅人は、こうした高低差の階段や坂道を上っていったのだろうか。



中之島が防潮堤で囲われているのは、地盤沈下によって海拔が低くなっているから。「自分たちが住む、働く場所の地形を知ること、防災意識を無意識に高めることにもなる」と新之介さん。



てきたんです」

十三から始まったブログは、隣の梅田や中津、福島、天満、中崎町……とだんだんとエリアを広げ、今や800以上の記事を誇る一大アーカイブとなった。精緻な文章とわかりやすい地図は専門家も舌を巻くほど。

2012年、ある本との出会いが新之介さんを「地形」に開眼させる。中沢新一氏の『大阪アースダイバー』（講談社）だった。

「十三は平べったい街で、起伏がほとんどない。だから、大阪は平らな街だと勝手に思い込んでいたんです。でも、『大阪アースダイバー』を読んでも、そうじゃないとわかった。それまでは

立ち上げ、一般の参加者を募って地形散歩のイベントも行った。その成果が今回の1冊に詰まっている。

単なる街歩きでも古地図を眺めるのとも違う地形散歩。その魅力を新之介さんは、「縄文時代や古墳時代の大阪の風景をありありと想像できる」ことにあると話す。

「明治時代の中之島の地図に面白いものがあります。東横堀川の北側に小さな新しい砂州ができています。これを埋め立てて、現在の中之島ができたんです。大阪ってそんな風にしてきた土地が多い。そういう視点を面白いと思ってくれる人を増やしていきたいですね」

平面だった頭の中の地図が、急に立体になったようでした」

中沢氏の視点をヒントに、縄文時代の海岸線沿いを重点的に歩くようになった。車も自転車も使わずひたすら自分の足で歩くうち、どんどん面白くなっていく。大阪でも地形を楽しむ人を増やしたいと、「大阪高低差学会」を

『凹凸を楽しむ
大阪「高低差」地形散歩』
新之介(洋泉社/2,200円＋税)

地形のデコボコ、すなわち高低差を軸に大阪のさまざまな街のなりたちを紹介する。上町台地に始まり、道頓堀、大阪駅周辺から、堺や千里丘陵、石切など全12エリア。前半で大阪の地形に関する基礎知識を解説してくれるのもありがたい。オールカラーで見やすい地図や写真も多数。

ブログ「十三のいま昔を歩こう」
<http://atamatote.blog119.fc2.com/>



トウニン月報

2016年9月1日発行



新ダイビル 撮影：飯島 隆

響楽団を始めとした豪華メンバーが、いろいろな楽器を手にほぼ無料演奏を披露してくれるのだ。第11回を迎え、その内容は年々パワーアップしている。昨年新たな試みとして会社帰りに立ち寄り

中之島界隈に音があふれる「大阪クラシック」の1週間

やすいように設けた18時以降の夜間公演が大好評。リクエストも寄せられ、今年はより平日夜間のプログラムを充実させているようだ。その会場も大阪市役所と、わかりやすく

音楽ホールからオフィスビルまで、中之島周辺のさまざまな建築物の中でコンサートが行われる「大阪クラシック」。今年は9月11日（日）から17日（土）まで1週間開催される。中之島ダイビルや大阪証券取引所ビルなどオフィス街に響く音色に、長年のファンもいるこの音楽イベント。なにしろ大阪フィルハーモニー交



中之島ダイビル



中之島三井ビル

第11回 大植英次プロデュース「大阪クラシック～街にあふれる音楽～」

期間／9月11日（日）～9月17日（土）
時間／11:00AM～8:30PM ※開催日によって異なる
会場／大阪市中央公会堂、中之島ダイビル、アートエリアB1、大阪市役所など
料金／無料（一部有料公演あり）
問い合わせ／大阪クラシック事務局 ☎06-6210-2454
（平日10:00AM～6:00PM）
※日程や曲目、会場など詳しくは
<http://www.osaka-classic.com/>



あのリバーサイドビルディングが登録有形文化財に！

中之島3丁目、土佐堀川沿いに建つリバーサイドビルディングが、登録有形文化財（建造物）に登録されることになった。

ビルのオーナーである桐生幸之介さん（写真）は、その喜びをこのように語る。

「両親から建設時の話を何度も聞かされていたし、40年以上このビルに事務所を構えていますから、当然愛着はあります。建築関係の人たちからの評価は高いものの、世間一般的にはどうなのだろうとずっと悩んでいました。今回の登録によって、『今後も残していくべき建築なんだな』と実感することができました」

リバーサイドビルの魅力について、早くから発信していたのが建築家の高岡伸一さんだった。桐生さんは、5年ほど前に高岡さんと話したのをきっかけに、ビルの持つ価値について意識し始めたという。その高岡さんは、今回の登録を「画期的」と評する。

「リバーサイドビルの竣工は

昭和40年（1965）と、竣工後50年以上という登録有形文化財の申請要件を満たしたばかり。他の建築と比べても圧倒的に若いのですが、そもそもこの時期に建てられた建築が登録されることはとても珍しい。また、個人的には格好いいデザインだと思いますが、そこまで特徴的というわけではなく、一般の人にとっては普通のビルに見えるでしょう。そんな建物で、戦後のオフィスビルの典型として、歴史的価値が認められたことを理由に登録されたことは、快挙と呼んでいいと思います」

レトロな近代建築の一方で、最新の高層タワーが建ち並ぶ中之島。しかし、古いか新しいか、どちらかだけではつまらない。さまざまな時代の色を反映した、個性豊かな建築が並ぶ街であってほしいと、あらためて思う今回のニュースである。（大迫力・本誌）



「ナポリピッツアには地元のワイン。地域性の組み合わせが、一番美味しい」

これからの季節は、「ノヴェッロ」と呼ばれるイタリアワインの新酒の解禁が楽しみです。新酒といえば、11

月に出るフランスの「ボジョレーヌーヴォー」が有名ですが、ノヴェッロは一足早い10月30日から味わえます。

最大の特徴は、イタリア全20州がその土地土地のブドウを使い、各地で作っていること。それぞれ日本の地酒のように個性豊かです。綺麗な空気と水に恵まれたアルプス山脈に近い北部は、涼しい気候なので長い時間をかけてブドウが熟れ、しっかりと濃いワインができます。酪農地帯らしい生クリームや赤身肉を使った、こってりした煮込み料理に負けない味わいです。

一方、地中海に近い南部は日



照量が多いためブドウがよく熟成し、ワインもフルーティー。地元では、これをトマトや海の幸をシンプルに味わう料理と共に楽しめます。このように、南北に伸びるイタリアでは食文化の地域性かなり違います。そして、その土

地のワインにはその土地の料理を合わせるのが一番美味しいことを、イタリア人はよく知っています。

たとえば、ピッツア発祥と言われる南イタリアのナポリには、古くから街じゅ



イタリア現地の食文化を教える

**[Mano-e-Mano
pizzeria&bar]**
ワインソムリエ
井上優一さん

しているのが、扱うワインも南イタリア産を中心に。この夏は、日本ではあまり深く知られていないシチリア島ワインを取り揃えていました。お客さんにはナポリの人々のようにワインとピッツア、地域性の組み合わせを気軽に楽しんでもらいたい。現地で修業したピッツァアイヨロが店内で焼いていますから、その仕事ぶりにも注目してみてください。

うにピッツェリアがありますが、ワインを頼むと、何も言わなくても地元のワインが出てきます。薄生地バリパリとしたローマピッツァなら、軽やかさが親しみやすい地元のワイン。私たちのお店では、そんな伝統的な地域性の組み合わせを大切にしています。

店のイメージは南イタリアですが、北部や中部の地域性も味わってもらおうべく、秋からのメニューは次第にイタリアを北上していきます。山岳地帯で採れるキノコや特産品のバターをたっぷり使い、重厚なワインも登場します。そして、春に向かってまた南下していきます。いつご来店いただいても、イタリアの四季を感じ取ってもらえるように。



祝 祭 へ よ う こ そ。

FESTIVAL
PLAZA

<http://festivalplaza.jp/>

提供/株式会社 朝日ビルディング

Information from マーノ エマーノ ピッツェリア&バー [中之島フェスティバルタワーB1階]

おなじみの「マルゲリータ」など、店内の石窯で焼き上げたピッツァに、食べ放題のサラダバーが付く平日ランチは980円。ピッツァは終日テイクアウトも可能だ。9月13日(火)は4周年記念パーティーを実施。「イタリアの夏祭り」をテーマに、店内ではライブも開催され、テラス席でご機嫌に飲んだり食べたりできる。詳しくは同店のHP(下記URL)まで。

☎06-4708-3517 11:00AM~10:00PM(LO)

<http://mano-e-mano-on.jp/>



大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅／京阪シティモール／京阪モール／デリススタ天満橋店／ホテル京阪天満橋／ホテル京阪京橋
- 大阪市北区・中央区・福島区 〔書店〕旭屋書店 梅田地下街店／紀伊國屋書店 梅田本店／ジュンク堂書店 大阪本店／梅田ヒルトンプラザ店／天満橋店／MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店／文教堂書店 淀屋橋店／隆祥館書店 〔公共施設・大学関連施設など〕アイズボット／朝日カルチャーセンター／味の素 食のライブラリー／ABC朝日放送／大阪企業家ミュージアム／大阪倶楽部／大阪工業技術専門学校／大阪国際会議場／大阪市中央公会堂／大阪市立科学館／大阪市立総合生涯学習センター／大阪市役所市民情報プラザ／大阪城天守閣／大阪商工会議所／大阪大学中之島センター／大阪21世紀協会／大阪府立中之島図書館／大阪ボランティア協会／大阪歴史博物館／追手門学院 大阪梅田サテライト／川の駅はちけんや／関西学院大学 大阪梅田キャンパス／慶應大阪シティキャンパス／国立国際美術館／CITY NAIL'Sインターナショナルスクール／芝川ビル／市立住まい情報センター／少彦神社／中央電気倶楽部／適塾／ドーチャ／ホテルNCB／メビック扇町／立命館大阪オフィス／龍谷大学大阪梅田キャンパス 〔店舗・医院など〕アンドール 本町本店／上町貸自転車／Ultra 2nd／江戸前鮎料理 志津可／天満橋鍼灸整骨院／MJB珈琲店／エルマーズグリーン コーヒーカウンター／OOO(オーオー)／カセット／喫茶カンターロ／喫茶SAWA／グランドスイート中之島／黒門かき／コモンカフェ／The Court／サウ花店 中之島本店／ザ・メロディ／シアトルベストコーヒー新聞ビル店／じろう亭／Girond's JR／心斎橋山田兄弟歯科／住友病院／セブンイレブン大阪証券取引所店／タビエスタイル／たまがわ鍼灸整骨院／東郷歯科医院／NAKAGAWA1948 淀屋橋店／バスターレー／花かつ／BAR THE TIME 天神／平岡珈琲店／ビルニアカフェ／FOLK／フレイムハウス／ミニロー／宮崎歯科／やきとりばかや／吉田理容所／LES LESTON
- 大阪市内その他 〔書店〕旭屋書店 なんばCITY店／紀伊國屋書店 京橋店／ジュンク堂書店 難波店／福島書店／柳々堂／ループル書店 〔公共施設・大学関連施設など〕大阪科学技術館／大阪市社会福祉研修情報センター／大阪市立中央図書館／大阪府立江之子島文化芸術創造センター／川口基督教会 〔店舗・医院など〕あじさい／アートアンドクラフト／欧風食堂 ミリパル／大阪シティ信用金庫 江戸堀支店／御舟かもめ／カルチャーカフェ上方／Cabo Bookshop and cafe／写真とプリント社／鳥かごキッチン／ネイルサロン スワンナ／バルビコ／ホテル64オオサカ／MANGUEIRA／Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店／学連書／Books 呼文堂／水嶋書房 ぐずはモール店／大阪狭山市立図書館／大阪市立難波市民学習センター／大阪大学企画部広報・社学連携事務局／大阪大学 21世紀記憶堂／大阪大学本部／大阪府立中央図書館／摂南大学 地域連携センター／野村呼文堂／郵政考古学会／ゆったりんこ／連携考房 童子
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店／恵文社 一乗寺店／水嶋書房 丹波橋店／伊丹市文化振興財団／川のほとりの美術館／納屋工房／タバーン・シンパソン／百練／奈良県立図書館情報館
- 東京 往来堂書店(千駄木)／BOOKSルーエ(吉祥寺)／B&B(下北沢)／隣町珈琲(荏原中延)／ONLY FREE PAPER(渋谷)

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 生きた建築と人。

11月5・6日の「生きた建築ミュージアムフェスティバル」にちなんだ建築特集。
建築家の系譜や建設会社の歴史から、大阪らしい建築について考える。

●『月刊島民』vol.99は2016年10月1日発行です！

編集・発行人／江 弘毅(編集集団140B)
編集・発行／月刊島民プレス
若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
松本 創 江口由夏 大迫 力(編集集団140B)
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341
制作進行／堀西 賢(ALEGRESOL)
デザイン／山崎慎太郎
表紙イラスト／奈路道程
印刷／佐川印刷株式会社

京阪の人、 おけいはん。

駅から祇園に
おさんぽです。

祇園四条駅下車「祇園樂橋界隈」
出町柳けい子



www.okeihan.net

沿道おけいはん

検索

